

Title	付加価値のある渉外活動に向けての一考察
Sub Title	
Author	山下寿夫(Yamashita, Toshio) 河野宏和
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1999
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1999年度経営学 第1555号 不可
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001999-1555

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

所属ゼミ	河野 研究会	学籍番号	89828928	氏名	山下 寿夫
(論文題名)					
付加価値のある渉外活動に向けての一考察					
(内容の要旨)					
<p>日本版ビックバンのスタートで、銀行を取り巻く経営環境は厳しさを増してきている。そのような環境の中で、地方銀行が生き残っていくためには、今までの横並び体質から脱却し、他行との差別化を図ることが必要となってきている。そのため、現在S銀行では、リテール分野への特化を戦略として掲げ、競争優位の確立を目指している。しかし、商品設計の問題や審査基準の問題、非効率な渉外活動の問題など、今後改善しなければならない問題も認識されている。</p> <p>このような問題意識から、本研究では渉外活動の問題点に絞込むことで、渉外業務のプロセスを見直し、渉外活動の付加価値を高めることを研究の目的としている。</p> <p>そのアプローチとして、渉外担当者への帯同調査、インタビューによる調査を実施、問題点の抽出、問題を引き起こしている原因の分析、渉外活動改善への提言という順序で研究を行っている。</p> <p>具体的な内容として、まず、帯同調査、インタビュー調査等からわかったことをまとめるとともに、帯同調査における問題を誰がみてもわかりやすいように提示するため、部門間フロー図というものを作成している。その部門間フロー図やインタビュー調査の結果から、渉外活動における問題点の抽出をおこなっている。次に、抽出された問題点から、ムダを排除したり、改善をしようと考えても、どこから手をつけてよいのかがわかりづらい。そのため、問題点を引き起こしている原因を考え、一次原因と二次原因に分けて整理している。</p> <p>上記の整理された原因に関しては、「量的側面」と「質的側面」という2つの切り口から分析している。「量的側面」というのは原因が発生している場所(部門)のことを指しており、本研究では6つの場所に分類している。また、「質的側面」というのは原因の中身のことを指しており、原因の種類によって本研究では7つにパターン分類している。この2つの切り口を重ね合わせて、問題を引き起こしている原因を分析することで、問題解決に向けた優先度を検討し、渉外活動の改善に向けた具体的な提言を行っている。</p>					